学位論文審査の結果の要旨

寺崎　竜雄

観光振興を目的に，里地・里山などの自然環境や，そこで育まれてきた生活文化等の地域資源を，積極的に活用しようという取り組みが活発化している。一方で，観光旅行者の増加や行動の多様化に伴い，地域資源の劣化・喪失や，地域住民の生活環境の悪化が顕在化している。持続可能な観光の実現には，観光行動がもたらす負の影響の軽減・除去が不可欠であり，その対応策として，1990 年頃から観光旅行者の行動を調整・制御するローカルルールが散見されるようになった。本研究は，この地域独自の取り決めであるローカルルールに着目し、沖縄と小笠原における事例の収集・分析を通して，持続可能な観光のための地域資源管理の手法としてのローカルルールについて，その枠組み・概念の整理を行うと共に，現場での実践に向けた課題の考察を行った。

46 件の事例の網羅的な収集と詳細な分析によって，ローカルルールは「守るべき対象」,「適用（調整・制御）対象となる観光行動」,「設定・運用の仕組み」の 3 つの主要な構成要素で表すことができることを示し，さらに,「設定・運用者」と「適用対象者」の掛け合わせによる 5 つの類型を設定し，各事例を分類・整理した。そして，ローカルルールだからこその課題である「実効力」と「自走力」について，特に重点的に分析・考察し，これらふたつの「力」が発揮される条件を抽出することに成功している。

本研究は、これまで曖昧に使われることの多かったローカルルールについて，概念の確定、類型の抽出など，持続的観光研究にとどまらず，広く自然資源管理研究の進展に大きく貢献すると共に、「実効力」、「自走力」という独自の概念に基づいた実践への示唆を提示するなど多大な成果をあげた。

以上のように，本論文は，多くの新しい知見を有すること，論文の内容，構成および公表論文数などから，本学位論文審査委員会は，全員一致して，本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し，合格と判定した。